

# 建築家前川國男の世界

## 「公共建築のあるべき姿を 弘前から体感する」春(生誕120年)編

弘前市になぜ8つの前川國男建築が存在するのか。その関係性と作品の魅力に迫るワークショップシリーズです。3回目の春(生誕120年)編では、「弘前市」と「公共建築」をテーマに前川國男自身の近代建築への葛藤と、建築の本來あるべき姿像について深掘りする記念ワークショッププログラムです。

日時

1日目

2025 5.24(土) 14:00~16:00

弘前市民会館(大会議室)  
座学

2日目

2025 5.25(日) 10:00~15:00

弘前市役所前川本館及び前川新館  
見学&ワークショップ

※全2回、どちらか1日でもご参加いただけます。  
※両日とも開始30分前から受付いたします。  
※2日目の集合場所は初日にお伝えいたします。

参加費 2日間通し 2,000円(1日のみ参加 1,000円)

定員 各回30名

お申し込み方法 2025年4月1日より窓口またはお電話でお申し込みください。

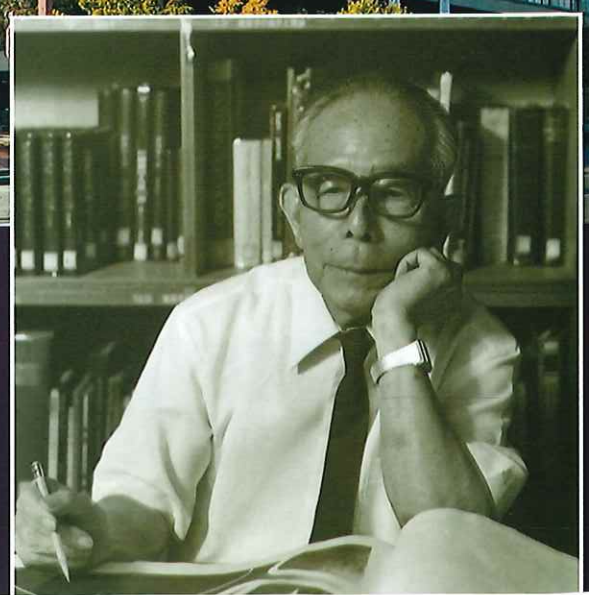
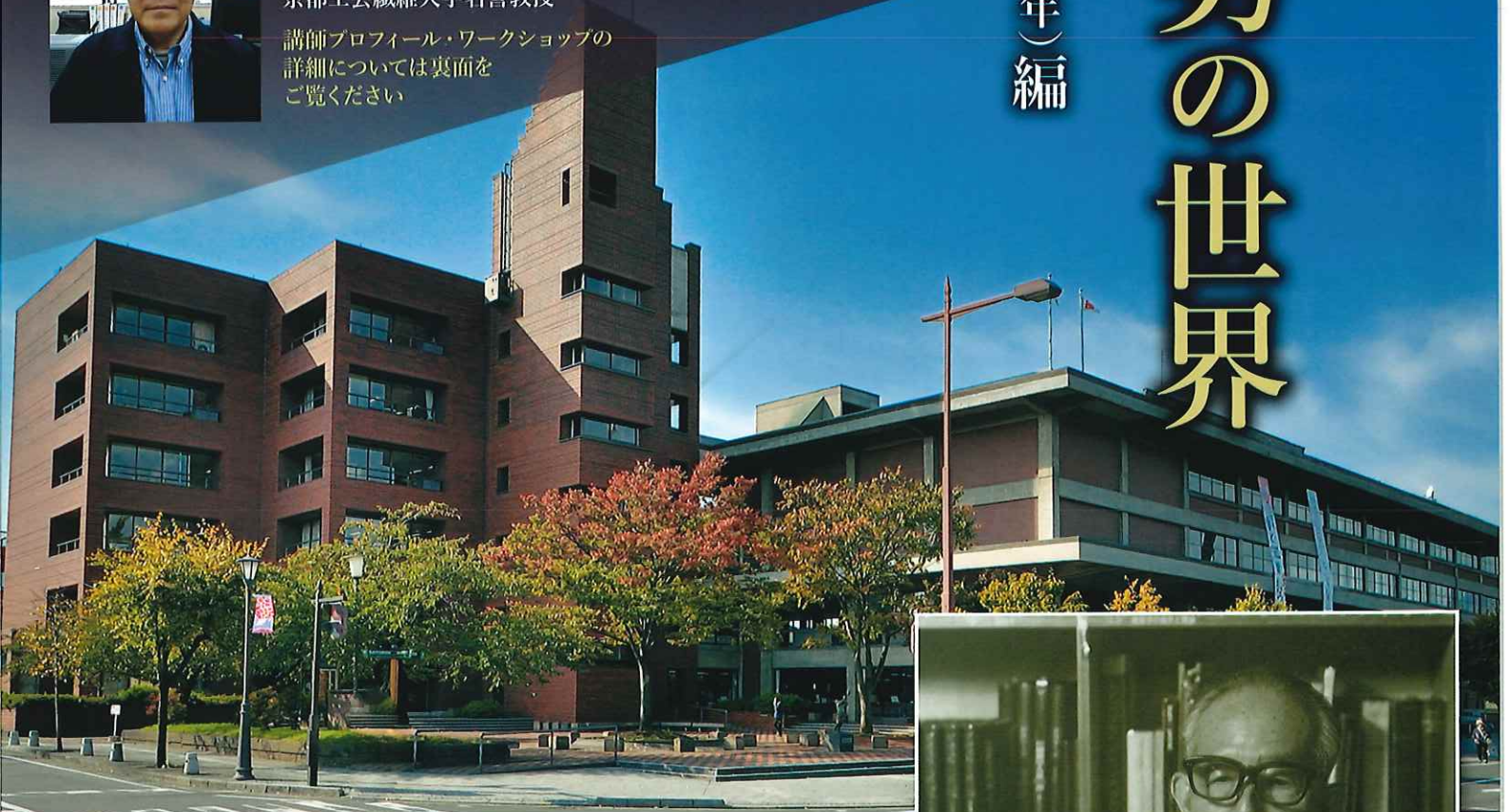
お申込みお問合せ 弘前市民会館 TEL 0172-32-3374

9:00~17:00 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地6  
休館日/毎月第3月曜日(月曜日が休日の場合、翌日)

主催:弘前市指定管理者 ひろさきホールディングス(弘前市民会館)  
後援:弘前市 協力:前川國男の建物を大切にする会



講師 松隈 洋  
神奈川大学教授  
京都工芸繊維大学名誉教授  
講師プロフィール・ワークショップの詳細については裏面をご覧ください







## 講師 松隈 洋 HIROSHI MATSUKUMA

神奈川大学教授／京都工芸繊維大学名誉教授

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。

2008年10月同教授、2023年4月から現職。工学博士(東京大学)。専門は近代建築史、建築設計論。主な著書に、『未完の建築 前川國男論・戦後編』、『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジェから遠く離れて』、『モダニズム建築紀行』、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』、『残すべき建築』、『前川國男 現代との対話』(編著)、『建築家・前川國男の仕事』(共編著)、『建築家大高正人の仕事』(共著)、『日本建築様式史』(共著)など。「生誕100年・前川國男建築展」(2005年)事務局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(2000年)と「同100選」展(2005年)のキュレーションの他に、A・レーモンド、坂倉準三、C・ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾、谷口吉郎・谷口吉生、吉村順三、大高正人、増田友也、山本忠司、浦辺鎮太郎、瀧光夫、鬼頭梓など、多くの建築展の企画に携わる。

DOCOMOMO Japan代表(2013年5月～2018年9月)。文化庁国立近現代建築資料館運営委員(2013年4月～2020年3月)。同志社大学兼任講師(2009年4月～2012年3月、2018年4月～2021年3月)、京都芸術大学非常勤講師(2011年～)。2019年に著書の『建築の前夜 前川國男論』により日本建築学会賞(論文)受賞。



前川國男と国立音楽大学附属幼稚園の竣工式にて(1983年10月8日)

## ワークショップ内容

### 1日目 座学 [会場] 弘前市民会館 大会議室

#### ～弘前市の公共建築へのかかわり～

弘前市と前川建築とのつながりは、1932年のデビュー作・木村産業研究所に始まり、1954年には、前川國男にとって記念すべき最初の公共建築として青森県立の弘前中央高校講堂が竣工する。そして、1956年、弘前市から初めての設計依頼を受けた弘前市庁舎を起点に、前川の弘前市における一連の公共建築の仕事がスタートしていくこととなる。そこから30年。弘前市との関わりの中で、公共建築という概念がどのように彼の中で変化していったのか、そして、その作品としての建築物がどのような変貌を遂げてきたのか。その深みに迫ります。



#### ～「弘前市役所」＝前川建築における設計方法論の大転換点～

弘前市役所の特徴は、コンクリート打ちっぱなしの柱と梁、そして建物全体をめぐる頑丈な水平の庇から構成された堂々とした骨太なたたずまい。当時の市長である藤森氏が前川國男から希望を聞かれた際、「津軽十万石追手のご門と堀をへだてて、向かいあう庁舎のことだから、追手の門に位負けしない庁舎をつくってください。」「雪国に多いすがもりのない建物に」「退庁にあたって机上に一物も残さない用意のため各部屋に書類を入れる大きな戸棚がほしい」と三つの願いを申し入れた。そのオーダーと結果としての建築物である弘前市役所に隠されている設計方法論の転換点とは何なのか。人間と建築との関係性を重視する前川の姿勢を紐解きます。



前川國男とル・コルビュジェ  
1951年ロンドンにて

### 2日目 見学&ワークショップ [会場] 弘前市役所前川本館及び前川新館

前半では、前日の講義内容を踏まえ、弘前市役所前川本館及び前川新館の外観、内部を実際に見て回り、建築物1つ1つの意味を実感していただきます。後半では、弘前市役所を例に取り、「公共建築」に関わるワークショップ/クロストークを中心に、参加者の方とともに、公共建築のあるべき姿について考える機会をつくります。

